古の道をたどり、歴史と文化を知る。
パノラマ伊那市

歴史散歩

まほら伊那

古の道をたどり、歴史と文化を知る。

パノラマ伊那市

長谷エリア HASE

M-7 熱田神社〔国重要文化財〕

伊那ICより45分
伊那市長谷溝口

日本武尊が東征の帰途この地に立ち寄り、村人を悩ませていた大蛇を退治したとの伝説があった。後の世の人々がその恩沢を慕い、尾張の熱田神宮の形影をお迎えし産土神として祀ったのが熱田神社である。現在の本殿は宝暦13年（1763）に再建されたもので、規模は小さいながら特殊な建築技法と精巧かつダイナミックな彫刻から「伊那日光」と呼ばれ親しまれている。

問／伊那市長谷公民館 0265-98-2009

M-6 検校塚

伊那ICより45分
伊那市長谷非持

平安時代のこと、一条天皇秘蔵の鷹が獲物をまったく獲らず、どんな優秀な鷹飼も飼いあぐねていた。これを優秀抜群に飼いならした依田豊平は、その褒美として信濃国非持の里を与えられ、その地を治める検校となった。伝承では「検校豊平」は善政を行い、村人に敬愛されたと伝えられる。墓所である検校塚には明治15年に区民の手により頌徳碑が建立された。

問／伊那市長谷公民館 0265-98-2009

M-7 宗良親王の遺跡

伊那ICより45分
伊那市長谷溝口

南北朝時代、後醍醐天皇の第8皇子「宗良親王」は信濃宮と呼ばれ、信濃大河原を拠点に南朝復興を目指し転戦したと記録されている。明治中期、御山の裾から無縫塔が発見され、昭和6年郷土史家の調査により十六弁菊花の紋章と「尊澄法親王」の文字が刻まれていることが判明した。以後、この塔を御山に安置し宗良親王の遺跡として毎年供養が営まれている。

問／伊那市長谷公民館 0265-98-2009

M-7 八人塚

伊那ICより50分
伊那市長谷黒河内

戦国時代、伊那地方は武田信玄の軍門に降っていた。弘治2年（1556）、信玄が川中島で上杉謙信と対陣している間に、伊那の八豪族は信玄と婚姻関係にあった木曽氏を攻撃した。それを知った信玄は大いに怒り、八人の武将を捕らえ伊那狐島で処刑した（蓮台場G-5）。黒河内の人々はひそかに8人の首を持ち帰りこの地に葬った。

問／伊那市長谷公民館 0265-98-2009

M-7 戸台の化石資料室

P 🚻 伊那ICより45分
伊那市長谷溝口

サンカクガイやアンモナイトなどの化石が産出する戸台層は、中生代白亜紀（約1億2千万年前）の比較的浅い海底で堆積した地層が、長い間の地殻変動で隆起したものと考えられている。長谷公民館内にある化石資料室には、学習会で採取された化石が整理・保存されているほか、代表的な化石が展示されている。

問／伊那市長谷公民館 0265-98-2009

M-10 孝行猿資料館

伊那ICより50分
伊那市長谷市野瀬
P 🚻

鉄砲で撃たれて死んだ母猿を蘇生させようと、囲炉裏で手をあぶって必死に母の体を温める子猿たち･･･。この話は、寛延2年（1749）に編纂された新著聞集に入野谷郷（長谷）の話として紹介され、戦前には修身の教本に掲載されたため、全国で知られる民話となった。資料館では民話を再現し、親を思う子猿のけなげな姿を伝えている。

問／資料館（気の里入野谷内）
0265-98-1030

M-10 市野瀬古城址（城山）

伊那ICより50分
伊那市長谷市野瀬

頂上には樹齢500年以上の堂々とした松が群立しており、みごとな枝ぶりは見るものを圧倒する。城山は展望が良く、室町時代には熊野城の、そして戦国時代には一ノ瀬城の物見台として使われていた。斜面一帯にツツジが植えられ、満開時には山が燃えているかのような花を咲かせる。

問／伊那市長谷公民館 0265-98-2009

M-10 宇津木薬師堂

伊那ICより55分
伊那市長谷杉島

戸倉山にまつられていた薬師如来が、東南の方角にあるサワラの木に飛び移ったという言い伝えがあり、その木を「移り木」と呼んだことから、宇津木という地名になったといわれている。この薬師堂は宝暦4年に新築され、建築の様式・彫り物・造作等すぐれた芸術作品で、中でも十蔵薬師は伊那諏訪地方の三薬師のひとつとうたわれ、縁結びの利益があるとして信仰を集めた。

問／伊那市長谷公民館 0265-98-2009

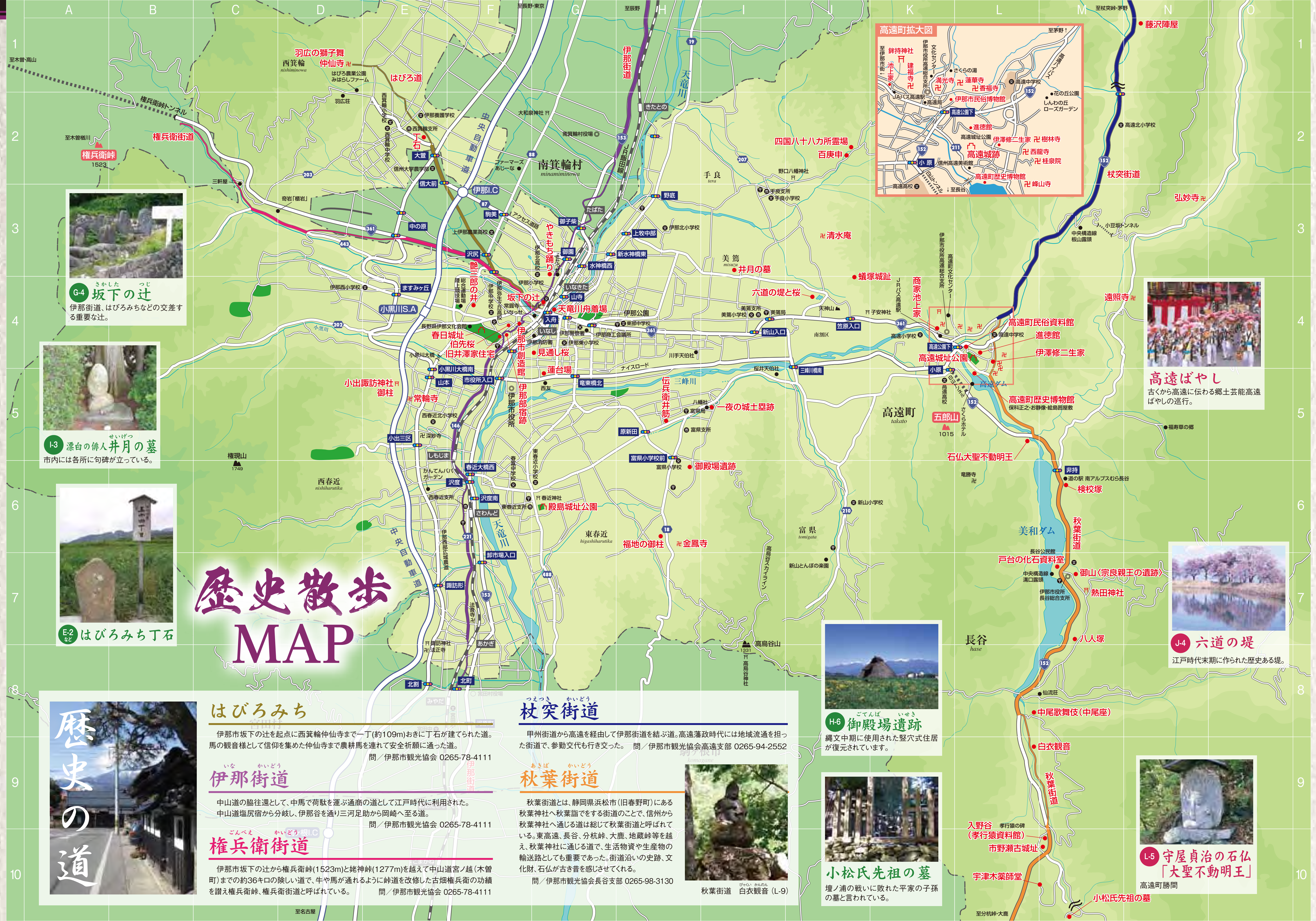
長谷の芸能

L-8 中尾歌舞伎

伊那ICより50分
伊那市長谷中尾
P 🚻

江戸時代中期、この地に旅芸人が来て、上中尾の山の神を祀ってある神社の前宮で演じたのが始まりとされている。娯楽の少ない時代、山の神祭りは唯一の楽しみの場であり、そして、この祭りにあわせるように歌舞伎が演じられ、いつの間にかこの地の芸能として定着し受け継がれるようになった。太平洋戦争後に一時途絶えたが昭和61年に復活し、以後、毎年春と秋に定期公演が行なわれている。

問／伊那市長谷公民館 0265-98-2009


歴史散歩MAP
高遠町拡大図
至木曽・高山
権兵衛峠
1523
権兵衛街道
三軒屋
権現山
1749
伊那I.C
伊那市
北割
北町
至名古屋
駒ヶ根市
komagane
高烏谷山
1331
高烏谷神社
南箕輪村
宮田村
西春近
東春近
手良
美篶
富県
高遠町
長谷
hase
五郎山
1015
美和ダム
戸台の化石資料室
熱田神社
八人塚
御山〈宗良親王の遺跡〉
検校塚
南アルプスむら長谷
中尾歌舞伎（中尾座）
入野谷（孝行猿資料館）
市野瀬古城址
宇津木薬師堂
小松氏先祖の墓
至分杭峠・大鹿
遠照寺
福寿草の郷
高遠城址公園
高遠町歴史博物館
高遠町民俗資料館
進徳館
伊澤修二生家
杖突街道
秋葉街道
伊那街道
はびろみち
春日城址
旧井澤家住宅
坂下の辻
蓮台場
井月の墓
六道の堤
殿島城址公園
福地の御柱
金鳳寺
御殿場遺跡
一夜の城土塁跡
清水庵
羽広の獅子舞
仲仙寺
はびろ道
四国八十八カ所霊場
百庚申
小出諏訪神社
常輪寺
白衣観音

G-4 坂下の辻

伊那街道、はびろみちなどの交差する重要な辻。

I-3 漂白の俳人井月の墓

市内には各所に句碑が立っている。

E-2など はびろみち丁石

H-6 御殿場遺跡

縄文中期に使用された竪穴式住居が復元されています。

小松氏先祖の墓

壇ノ浦の戦いに敗れた平家の子孫の墓と言われている。

高遠ばやし

古くから高遠に伝わる郷土芸能高遠ばやしの巡行。

J-4 六道の堤

江戸時代末期に作られた歴史ある堤。

L-5 守屋貞治の石仏「大聖不動明王」

高遠町勝間

歴史の道

はびろみち

伊那市坂下の辻を起点に西箕輪仲仙寺まで一丁(約109m)おきに丁石が建てられた道。馬の観音様として信仰を集めた仲仙寺まで農耕馬を連れて安全祈願に通った道。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

伊那街道

中山道の脇往還として、中馬で荷駄を運ぶ通商の道として江戸時代に利用された。中山道塩尻宿から分岐し、伊那谷を通り三河足助から岡崎へ至る道。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

権兵衛街道

伊那市坂下の辻から権兵衛峠(1523m)と姥神峠(1277m)を越えて中山道宮ノ越（木曽町）までの約36キロの険しい道で、牛や馬が通れるように峠道を改修した古畑権兵衛の功績を讃え権兵衛峠、権兵衛街道と呼ばれている。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

杖突街道

甲州街道から高遠を経由して伊那街道を結ぶ道。高遠藩政時代には地域流通を担った街道で、参勤交代も行き交った。

問／伊那市観光協会高遠支部 0265-94-2552

秋葉街道

秋葉街道とは、静岡県浜松市（旧春野町）にある秋葉神社へ秋葉詣でをする街道のことで、信州から秋葉神社へ通じる道は総じて秋葉街道と呼ばれている。東高遠、長谷、分杭峠、大鹿、地蔵峠等を越え、秋葉神社に通じる道で、生活物資や生産物の輸送路としても重要であった。街道沿いの史跡、文化財、石仏が古き昔を感じさせてくれる。

問／伊那市観光協会長谷支部 0265-98-3130

秋葉街道　白衣観音（L-9）

歴史を知る

F-4 伊那部宿旧井澤家住宅

伊那市西町 P 🚻

伊那街道の中間点にあった伊那部宿。井澤家はこの宿場の中で、代々造り酒屋を営んでいた。

問／伊那部宿旧井澤家住宅 0265-74-8102　定休日：毎週火曜日
入館料：一般200円　小中学生100円　※団体割引（20人以上）あり

F-4 伊那市創造館

伊那市荒井3520 🚻

旧上伊那図書館を改修し、学習と交流の拠点として生まれ変わった。伊那市内で出土した国重要文化財指定「顔面付釣手形土器」など縄文時代からの貴重な資料が数多く展示されている。上伊那地方最古の洋館である。

問／伊那市創造館 0265-72-6220　定休日：毎週火曜日　入館料：無料

L-4 高遠町民俗資料館

P 🚻
※旧池上家のみトイレなし

旧馬島家住宅（L-4）

旧池上家（K-4）

・高遠なつかし館・旧馬島家住宅・旧池上家
「旧馬島家住宅」享保12年より高遠藩医を務めた馬島氏住宅。診療したスペースが残る。
「高遠なつかし館」は体験的民俗資料館
「旧池上家」代々、名主・問屋の家筋にあたっていた商家、酢や醤油などの製造販売をしていた。
問／3館とも高遠なつかし館 0265-94-4044　休館日：水曜日・祝祭日の翌日
入館料：一般200円　小中学生100円

お問い合わせ先

■伊那市観光協会（伊那市役所内）
長野県伊那市下新田3050番地　☎0265-78-4111

■伊那市観光協会 高遠支部（伊那市高遠町総合支所内）
長野県伊那市高遠町西高遠1806番地　☎0265-94-2552

■伊那市観光協会 長谷支部（伊那市長谷総合支所内）
長野県伊那市長谷溝口1394　☎0265-98-3130

伊那市観光協会のホームページはこちら→
http://inashi-kankoukyoukai.jp/

高遠 TAKATO エリア

K-4 建福寺

伊那ICより25分
伊那市高遠町西高遠

守屋貞治の石仏群や仏足石のある石仏の寺。戦国時代には武田氏の庇護を受け隆盛を極めた。武田勝頼が出した朱印状が伝わるほか、勝頼の母である諏訪御料人のものと伝えられる位牌や墓がある。また、戦国大名保科家の菩提寺としても知られ正直や正光の墓がある。

問／伊那市観光協会高遠支部
0265-94-2552

L-4 満光寺

伊那ICより25分
伊那市高遠町西高遠

鐘楼門の寺。かつて科の木を使い、善光寺になぞらえて建てられたので、信濃の科寺とか、伊那善光寺とも呼ばれた。境内にある樹齢数百年の古松は「極楽の松」と呼ばれ、この松を一目見ると極楽往生できると伝えられている。また、高遠藩主内藤家の菩提寺でもある。

問／伊那市観光協会高遠支部
0265-94-2552

K-4 鉾持神社

伊那ICより25分
伊那市高遠町西高遠
🚻

高遠城の守護神として歴代領主の厚い信仰を受けた神社。JR高遠駅から少し北に歩くと、急な階段が天に登りつめるかのように続いている。石段の数は321段。何回か場所が変わっているが、現在の地に移った時に土中から鉾が出たので、鉾持神社と名付けられた。

問／伊那市観光協会高遠支部
0265-94-2552

N-4 遠照寺

伊那ICより40分
伊那市高遠町山室
P 🚻

創建は平安時代（860年頃）の日蓮宗の寺。ぼたん寺として有名で境内に170種1000株のぼたんが咲き誇る。室町時代に建立された和様折衷様式の釈迦堂は東日本では珍しく、内部の多宝塔とともに国重要文化財に指定されている。また市指定文化財の七面堂、亀島庭園がある。

問／遠照寺 0265-94-3799

N-3 弘妙寺

伊那ICより40分
伊那市高遠町荊口
P 🚻

弘妙寺須彌壇

山室川沿いの日蓮宗の寺。800年もの歴史を持つこの寺は「高く遠く」のゴルフ寺として有名。天然カラマツの本堂柱、三浦輝峰氏ら23人の肖像画家が油絵で描いた96枚の天井花鳥画が珍しい。本堂内陣の須彌壇は諏訪の宮大工・白鳥弥四郎の作で見事な彫刻が目を引く。

問／弘妙寺 0265-94-4052

L-4 香福寺

伊那ICより30分
伊那市高遠町長藤的場

高遠、最古の創建。745年に行基菩薩が高遠の地を訪れた時、奇岩を見て薬師如来の薬壺がひらめいたので一棟の堂を建て、薬師如来を彫って本尊とし、法相・三論の道場としたのが始まりと伝えられる。現在は真言宗。秋の紅葉がとても鮮やか。

問／伊那市観光協会高遠支部
0265-94-2552

L-4 蓮華寺

伊那ICより30分
伊那市高遠町長藤的場
P

絵島の墓

日蓮宗の寺。初めは長遠寺といい高遠北原にあったが、鳥居氏により現在の場所に移され、後に蓮華寺と改称された。七面堂は当初、鳥居氏が四代将軍家綱の位牌堂として建立し、改易後に七面明神が祀られた。また、大奥で権勢をふるった絵島の墓がある。

問／伊那市観光協会高遠支部
0265-94-2552

L-4 守屋貞治の石仏

桂泉院 准胝観世音菩薩

江戸時代、守屋貞治を始めとする高い技術を持った高遠石工は全国に出向き石を刻んだ。建福寺（K-4）には西国三十三所観音や願王地蔵尊を始めとする多数の貞治仏がある。このほか常盤橋のたもとにある大聖不動明王（L-5）や、桂泉院境内の准胝観世音菩薩・延命地蔵大菩薩が有名。

問／伊那市観光協会高遠支部
0265-94-2552

L-5 高遠町歴史博物館

伊那ICより30分
伊那市高遠町東高遠
P 🚻

高遠藩主内藤家に伝わった家宝の兜や高遠城をはじめとする郷土の歴史を語る貴重な資料を多数収蔵展示。博物館前の庭には、H21年建立の名君保科正之公、生母お静像顕彰碑がある。絵島囲み屋敷（当時の見取り図を元に復元）も併設されている。

※保科正之：徳川二代将軍秀忠の子で三代将軍家光の異母弟。保科家の家督を継ぎ高遠藩主となった後、出羽山形藩主、会津藩主となり四代将軍家綱の後見人として幕政を支えた名君。
※絵島：大奥の大年寄で絵島事件により高遠へ流罪となった。花畑の囲屋敷で61歳の生涯を閉じ、遺体は蓮華寺に葬られた。
※定休日：月曜日（原則）入館料：400円

絵島囲み屋敷

問／高遠町歴史博物館 0265-94-4444

L-5 峰山寺

伊那ICより30分
伊那市高遠町東高遠

高遠藩主鳥居家の菩提寺。鳥居忠春が父忠政の追悼のため堂宇を再興して、峰山寺と改称した。本尊は文覚上人作と伝えられる不動尊で霊験あらたかな秘仏。境内の墓地には藩主・鳥居忠春とその生母の墓や藩学者の阪本天山・中村元恒、政治家・中村弥六らの墓もある。

問／伊那市観光協会高遠支部
0265-94-2552

L-5 桂泉院

伊那ICより30分
伊那市高遠町東高遠
P

眺望絶景の寺。元は高遠城内にあって法幢院といい、織田勢による落城時には法要が営まれたが、後に月蔵山麓に移され改称した。寺の梵鐘は織田信忠が高遠城を攻める際、飯田市の名刹開善寺から略奪し陣鐘として引きずってきたもので長野県宝。境内には仁科五郎盛信の位牌殿がある。

問／伊那市観光協会高遠支部
0265-94-2552

L-4 樹林寺

伊那ICより30分
伊那市高遠町東高遠

高遠藩主保科家、鳥居家、内藤家の祈願寺。慶長6年（1601）保科正光が下総多胡から高遠に転封の際、下総樹林寺の本尊、夕顔観音を写し造らせ、観音堂の土を運んできて城の鬼門に当たるこの地に建立した。境内には名君保科正之公頌徳碑、正之の生母お志津の供養塔がある。

問／伊那市観光協会高遠支部
0265-94-2552

K-5 五郎山

伊那ICより35分
伊那市高遠町勝間

ここには高遠城主仁科五郎盛信の祠がある。1582年織田軍に攻められ高遠城が落城した際、壮絶な討ち死をした五郎盛信の屍を、地元の人々が焼け跡から持ち帰ってこの山に埋葬したことから呼ばれるようになった。

問／伊那市観光協会高遠支部
0265-94-2552

N-1 御堂垣外本陣跡

伊那ICより50分
伊那市高遠町藤沢御堂垣外

江戸時代の参勤交代の時、大名行列の一行や幕府の役人などが宿泊した御堂垣外の本陣跡。天和年間（1680頃）にはすでにこの宿が整備されていた。

高遠藩大名の内藤候、飯田の堀候、旗本の和久、近藤、小笠原、座光寺などの諸侯が金沢峠を越えこの街道を往来し、この本陣に宿泊したという宿札が残る。

問／伊那市観光協会高遠支部
0265-94-2552

L-4 高遠城跡・高遠城址公園

伊那ICより30分
伊那市高遠町東高遠
P 🚻

日本百名城にも選ばれた国指定史跡で、南北朝時代の高遠氏に始まり、武田氏、毛利氏、京極氏、保科氏、鳥居氏、内藤氏と城主が変遷。城の現形は武田氏に仕えた山本勘助が縄張りをしたと伝えられる。現在は城址公園となっている。

「天下第一の桜」桜の日本三大名所として名高い。長野県天然記念物にも指定されているタカトオコヒガンザクラの樹林は130年余の老樹から若木まで約1500本。桜の花はやや小ぶりだが色が濃く、満開時は桃色の雲の中にいる気分になる。桜の時期はもちろん、夏は緑が美しく秋には紅葉の名所となる。高遠閣、無字の碑、新城藤原神社など見どころも多い。春はさくら祭り、秋には紅葉を愛でる秋まつりが行なわれる。

問／伊那市観光協会高遠支部
0265-94-2552

L-4 進徳館

伊那ICより30分
伊那市高遠町東高遠
P 🚻

高遠城内の三ノ丸に設けられた高遠藩の藩校。石段を上がり古い門をくぐった先にある茅葺屋根の屋舎は江戸時代から城跡内に現存する唯一の建物。伊澤修二をはじめわが国の近代教育を担う人材を多く輩出した。

問／伊那市観光協会高遠支部
0265-94-2552

L-4 伊澤修二生家

伊那ICより30分
伊那市高遠町東高遠

我が国の音楽教育の基礎を作り、東京師範学校長、東京盲唖学校長、東京音楽学校長（現在の東京芸術大学）などを歴任した伊澤修二の生家。高遠に唯一残る下級武士住宅である。伊那市では、毎年秋に伊澤修二先生記念音楽祭を開催している。

問／伊那市観光協会高遠支部
0265-94-2552

伊那の芸能・祭り

D-1 羽広獅子舞

伊那ICより10分
会場：仲仙寺　伊那市西箕輪
P 🚻

羽広地区に約400年の歴史を持つ小正月の伝統行事。現在は、毎年1月15日に近い日曜日に開催され、仲仙寺にて雌雄の獅子が「舞い合わせ」を行いその後、集落を回って家内安全、五穀豊穣などを祈る。雌雄の獅子が一緒に舞うのは全国でも稀有。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

G-3 やきもち踊り

伊那ICより15分
会場：白山神社　伊那市山寺上村

毎年4月15日に一番近い日曜日に行われる山寺区上村の八幡社白山社合殿の例祭。

氏子がユーモラスな踊りを奉納し、踊りが終わった途端我先に逃げ出す姿が観客の笑いを誘う。逃げ遅れると疫病にかかるという言い伝えがあり氏子の表情は真剣そのもの。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

H-4 I-5 さんよりこより

会場：美篶天伯社　伊那市美篶川手地区　伊那ICより約30分
桜井天伯社　伊那市富県桜井　伊那ICより約40分

上川手・下川手と桜井、三峰川をはさんだ両地区の七夕祭りで8月7日に行われる。応永34年（1427）高遠藤澤片倉の天白様が洪水でまず桜井に流れ着き、再び流されて川手地区に落ち着き、これを縁として始まった。七夕飾りの竹を持った子どもたちが太鼓を叩く村役の周りを「さんよりこより」と唱えながら3周したところで村役を滅多打ちにするが、これが洪水の災厄を叩き潰す神事である。その後天の川に見立てた三峰川を天白様が神輿に乗って渡り、桜井でもこのユーモラスな神事が行われる。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

G-4 伊那節

古くは「おんたけやま」と呼ばれた馬子唄で、権兵衛峠を行き来していた馬子たちによって伊那の各地に広まり、大正15年頃から「伊那節」と呼ばれ長野県を代表する民謡となった。「与地の伊那節」「福地の伊那節」などは元唄に近いものとして伝わっている。伊那公園に「伊那節の碑」がある。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

E-5 H-6 御柱

諏訪形：諏訪神社　伊那市西春近諏訪形区　伊那ICより15分
福地：諏訪神社　伊那市富県南福地　伊那ICより30分

伊那市内にはいくつかの諏訪神社があり古来よりの神事御柱が伝わっている。「諏訪形の御柱」「福地の御柱」など。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

K-4 だるま市

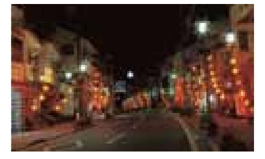
伊那ICより約30分
伊那市高遠町西高遠
P 🚻

約400年続くといわれる五穀豊穣を祈る祭りで、鉾持神社の祈年祭に合わせて旧暦正月14日（現在は2月11日(祝)に行われている。参道には縁起物の「福だるま」の露店が並び、大勢の人々で賑わう。

問／伊那市商工会 0265-94-2309

K-4 燈籠祭

伊那ICより約30分
伊那市高遠町西高遠
P 🚻



高遠町鉾持神社の例祭「燈籠祭」は豊作と無病息災を感謝して行われる。稲穂に見立てた赤いほおずき提灯が商店街に飾られ、その中を高遠ばやしが練り歩く様は、静かな秋の夜長に風情をかもしだす。

問／伊那市観光協会高遠支部 0265-94-2309

伊那 INA エリア

J-3 清水庵

伊那ICより30分
伊那市手良
P 🚻

およそ1200年前、京都清水寺、播磨国（兵庫県）清水寺の御本尊と同一の木を彫刻したと伝えられる観音様が、突如飛来した。この観音様をご本尊として祀ったのが清水庵の始まり。天正10年（1582）織田軍の武田攻め（高遠攻め）の際、炊き出しを強要され、これを拒否した清水庵はことごとく焼かれてしまったが、燃え上がる戦火の中ご本尊だけが再び飛脱し難をのがれたという。この『空飛ぶ観音様』は秘仏として祀られ60年に一度の御開帳のみに姿を現す。ここには隠れキリシタンが祈りを捧げた十字架が刻まれたお地蔵様、井月の句碑もある。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

J-4 蟻塚城

伊那ICより40分
伊那市美篶
P

美篶笠原集落の東北の小高い丘陵地にある中世の城。平安末期、この笠原の地は朝廷直轄の牧場「御牧」だったため、有力豪族の笠原氏が築城したと考えられている。笠原氏は諏訪神社神官一族の出と言われており、現在残る城跡は室町初期（14世紀）に成立し、戦国期（16世紀）に廃城となったらしい。本丸跡の斜面には高さ約5mの土塁が残る。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

J-2 百庚申・穴観音

伊那ICより40分
伊那市手良

江戸時代末期1847年から1860年までの13年間に当時の野口村を中心に百余人の寄進にによって造立。庚申の主尊は青面金剛で最前列中央に建ち、猿田彦命、半球形庚申供養など合計百体以上が整然と並んでいる。その中には、小さな盛り土の塚があり「穴観音」と呼ばれ、4体の石仏が安置されている。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

J-2 四国八十八カ所霊場

伊那ICより40分
伊那市手良

幕末1844～1847年間に野口村などの寄進によって造立された石仏群。八十八カ所霊場としているのになぜか石仏は89体ある。地面に直接立てる野仏方式であり舟型碑に観音様や薬師様等が浮き彫りされている。馬の神様の観音様もあり、当時は手良地区を中心とした農家の信仰を集めていた。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

I-5 一夜の城

伊那ICより40分
伊那市富県

天正10年（1583）3月、城将仁科五郎盛信以下、伊那の地侍などが立てこもる高遠城に織田の武田攻めの軍勢がせまり、織田軍は一夜にしてここに約50メートル四方の土塁を盛り陣城を築いた。現在は北東角の厚みのある土塁の一部が当時の様子を伝えている。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

G-6 殿島城址公園

伊那ICより20分
伊那市東春近
P

春日城主伊那部但馬守重成の次男新左衛門重国が分家して「殿島大和守重国」を名乗りここに居城した。重国は武田信玄に謀反人として殺された8人の豪族のひとりで、長谷の八人塚に葬られている（M-7）。現在は公園となっていて郷土を守った重国の碑が建っている。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

H-6 金鳳寺

伊那ICより30分
伊那市富県
P

文明2年（1470）駿河の国（現静岡県天竜市）玖延寺の天宗元康大和尚によって開山され、以来500年現在に至るまでに3度の火災に遭っては再建されてきた。本堂への石段の最上段右にある「於三の坐禅石」は夫を亡くして悲嘆に暮れていた上原於三が7日7夜その上に座って悟りを開いたといわれる石。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

H-5 伝兵衛井筋

伊那ICより30分

この井筋の歴史は古く起源は明暦元年（1655））水利に乏しい原新田村が三峰川の水を引き入れて開田しようとし、佐久から柳沢弥左衛門を招き万治元年（1658）に完成させたが、難所鞠ケ鼻（現高遠町下山田）の崩壊で長く放置された。天保3年（1832）杉島村（現長谷杉島）の伊東伝兵衛は、原新田村と協議、高遠藩の許可を得て自費で改修に着手し、その後貝沼・桜井・榛原・南福地・北福地へも分水し改修が進んだ。正式名は「春富大井筋」だがいつのころからか「伝兵衛井筋」と呼ばれている。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

D-1 仲仙寺

伊那ICより10分
伊那市西箕輪
P 🚻

弘仁7年（816）今から1100年以上の昔、慈覚大師は夢のお告げで信濃に下り霊木を得て十一面観音を刻み、観音様を刻んだ木片に写経し、経塚を作り納めた。その山を「経ケ岳」と言い、その麓に観音様をご本尊として開山したのが仲仙寺の始まりと言われている。開山当初は別の場所にあり、寺名も藤宝寺といった。慶長18年現在の地に移り羽広山仲仙寺と改称。「馬の観音様」として広く信仰を集めた。坂下の辻から始まる「はびろみち」はここが終点。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

E-5 常輪寺

伊那ICより10分
伊那市西春近小出1区
P 🚻

鎌倉時代、歌舞伎の題材にもなった「曽我兄弟の仇討」。兄弟の討った父の敵、工藤祐経の子犬房丸がすでに捕えられている曽我五郎（弟）に無礼をはたらいたと源頼朝により伊那の地に流刑となった。犬房丸は流されたこの伊那の地で水路を引いて原野の開拓や農業の振興に努め、古寺を再建し、厚く信仰した。この寺が現在の常輪寺の基と伝えられている。寺には犬房丸の墓、使用したという膳、椀、皿などがある。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

G-4 史蹟 天竜川舟着場

伊那ICより15分
伊那市坂下入舟
P 🚻

権兵衛街道と杖突街道（現国道361号）が伊那街道（現153号）と交差する坂下は、かって船着場として栄え「入舟」の地名が往時を忍ばせている。天竜川の通船は現辰野町平出から静岡県掛川市まで文政13年（1830）から約80年間続き、江戸や大坂に向けて木材・干し柿・林産物などが搬出され、東海地方からは塩・綿・干し魚などが入ってくる重要なルートであった。碑の横には河の神として船頭たちの信仰を集めた弁財天の祠もある。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

F-4 伯先桜と G-4 見通し桜

伯先桜：伊那ICより10分　伊那市西町
見通し桜：伊那ICより15分　伊那市狐島

伯先桜は、天明、化政の頃、儒医で知られた中村伯先（1756～1820）が自宅の庭先に植樹した枝垂桜で樹齢200年余、伊那市の天然記念木に指定されている。（左）

また、天竜川対岸の狐島区にある「見通し桜」は、洪水のためたびたび大きく川筋を変化させ、大きな被害を出した天竜川の測量起点として伯先桜との「見通し」を行った桜で、現在の桜は2代目。（右）

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

F-4 春日城跡

伊那ICより10分
伊那市西町
P 🚻

天文3年（1534）平家の末流粟田口民部重吉の16代目伊那部大和守重慶により築城、重慶の元の姓は春日であったことから「春日城」と呼ばれた。天文10年、織田信忠の武田討伐軍により廃城。城主は高遠城に入り討ち死したと伝えられる。現在は、桜の名所春日公園として親しまれている。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

G-5 蓮台場

伊那ICより20分
伊那市狐島

御仕置場とも呼ばれた場所で、武田信玄の侵略に対し最後まで抵抗した伊那の8人の武将が武田軍に捕えられ、この場所で磔の後、首をさらされた。長谷黒河内の人々は闇夜に紛れて8人の首を持ち帰り、長谷艮城の東に葬り冥福を祈った。八人塚碑（M-7）が建てられている。また江戸中期、民に慕われた北山和尚の墓でもある。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

F-4 艶三郎の井

伊那ICより10分
伊那市荒井

明治の中ごろ、天竜川西の高台では水利権を巡る争いが絶えなかった。用水の必要性を痛感した西伊那部村荒井の御子柴艶三郎は、私財を投げ打ち井戸の開削に奔走し、明治28年ついに水脈を発見、一帯の約40ヘクタールが水田となった。その後艶三郎は「俺の命は約束通り水神に差し上げる。俺は水神になる」と遺言し明治32年冬自刃。「井」は現在もこんこんと湧きだし近くに御子柴水神の頌徳碑が建っている。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111